Winter
# みんてつだより

## 日本民営鉄道協会
# 第21回鉄道フェスティバルに「みんてつ館」を出展

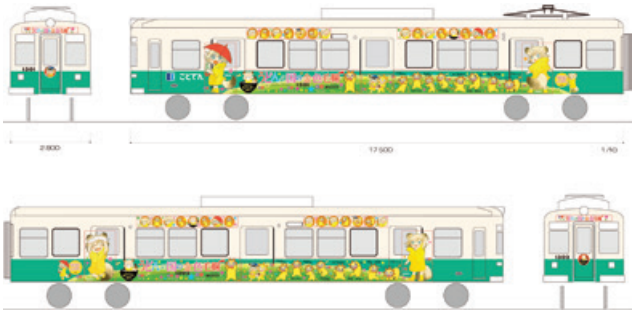
「鉄道の日（10月14日）」を記念する毎年恒例の鉄道イベント「第21回鉄道フェスティバル」が10月11日（土）・12日（日）の2日間、東京・日比谷公園で開催された。両日とも好天に恵まれ、来場者数は昨年を大きく上回り14万人に上った。

日本民営鉄道協会では、例年通り、さまざまなコンテンツを盛り込み『みんてつ館』を出展。クイズを解きながら館内を探検するみんてつクイズラリー、オリジナルのマグカップをつくる工作教室、好きな電車のパネルを背景に写真撮影ができる記念撮影コーナーなどが大勢の家族連れで賑わった。

中でも人気を集めていたのが、協会加盟42社が軒を連ね、鉄道関連グッズを販売する物販ブース。初日の早朝から長蛇の列ができ、完売する商品が続出する盛り上がりを見せた。

さらにメインステージでは、協会の特別協賛による『きかんしゃトーマスキャラクターショー』も開催され、鉄道ファンを筆頭に、一般客から小さな子どもたちまで、日本最大級の鉄道イベントを楽しんだ。

1オープニングセレモニーでテープカットをする日本民営鉄道協会・坂井会長（右端）。2『みんてつ館』前に登場した鉄道会社のキャラクターたちに子どもたちは大喜び。3さまざまな展示や工作教室の実施などで大勢の家族連れで賑わった。4 16社の中からお気に入りの電車を選んで記念撮影ができる記念撮影コーナー。5終日、行列が途切れることがなかった物販ブース。


ラッピング電車『ポコでん』

左：ことでん電車まつりで開催された『ポコでん』の出発式／上：長尾線を走るラッピング電車『ポコでん』

## 上信電鉄上信線
# 新駅「佐野のわたし駅」が開業

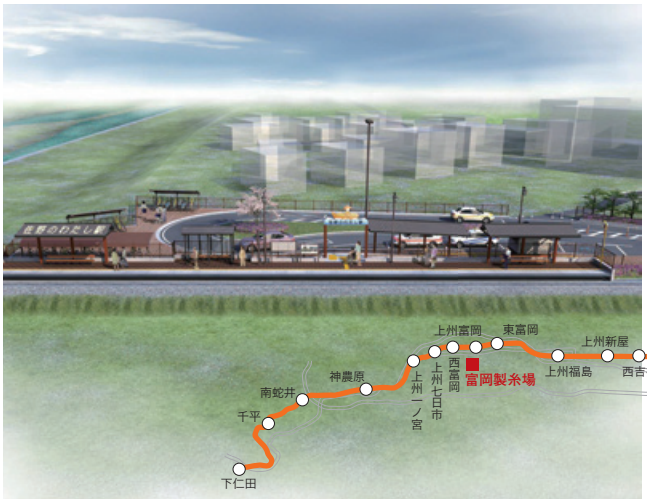
1895（明治28）年の開業から数えておよそ120年。高崎ー下仁田間を結ぶ上信電鉄上信線は、現存する日本の地方民鉄路線の中では、伊予鉄道に次いで二番目に早く開業した歴史を持っている。そんな上信線に2014年12月22日、新駅が誕生した。

地元の要望による請願駅として高崎市が整備・開業した新駅は、高崎駅を出発して2番目になる「佐野のわたし駅」。高崎市が群馬県内の小中学生を対象に公募し、駅名や出入り口のデザインなどが決まった。

駅名の由来は、新駅にほど近い場所に流れる烏川（からすがわ）に、かつて渡し船があったことによるもの。デザインでは、入場門は渡し船、駅名標には上信電鉄デキ1型電気機関車、ホームフェンスのイラストパネルは能の曲「鉢の木」をイメージしたデザインがそれぞれ決まった。

「富岡製糸場と絹産業遺産群」が世界遺産に登録されて以来、上信線の利用客が増えている。上信電鉄では新駅開業に伴い、上下線あわせて62本を66本に増便するなどのダイヤ改正を実施、地域を支える鉄道路線として利便性向上に努めている。

新型車両の7000形



「佐野のわたし駅」完成予想図（提供：高崎市）

「佐野のわたし駅」位置

## 高松琴平電気鉄道
# ことでんに「ポコでん」が運行

「ことでん」の愛称を持つ高松琴平電気鉄道。県都・高松を始発点に、金刀比羅宮〝こんぴらさん〟を結ぶ琴平線、四国八十八ヶ所の屋島寺・八栗寺・志度寺を結ぶ志度線、長尾寺を結ぶ長尾線の三路線が讃岐平野を走る。

そんなことでんで運行を開始した『ポコでん』が注目を集めている。香川県高松市出身の漫画家篠丸のどかさん作『うどんの国の金色毛鞠（きんいろけまり）』（月刊コミック@バンチ連載中）の主人公『ポコ』をあしらったラッピング電車だ。同作品は、東京から実家の高松に戻った青年と人間の子どもに変身したタヌキの子『ポコ』が繰り広げるファンタジー。作中には、ことでんの車両や駅舎が何度も登場している。

『うどんの国の金色毛鞠』と香川県のコラボ企画第1弾として登場した『ポコでん』は2両編成で、さまざまなポーズの『ポコ』とキャラクター『ガオガオちゃん』が愛嬌を振りまく。運行は、11月3日に開催された第13回ことでん電車まつりでのお披露目から1年間。高松築港駅から繁華街の片原駅町を通り抜け、終点の長尾駅まで。約40分の運行区間を『ポコでん』が毎日コトコト走っている。